

アレルギーの臨床に寄せる

児童生徒における鼻アレルギー有病率の性差

出典	アレルギーの臨床 (0285-6379) 16 巻 3 号 Page221-223 (1996. 03) (http://search.jamas.or.jp/link/ui/1996119469)
著者	三邊武幸 他
調査地域	北海道白老町
調査時期	1989 年 7 月 6~8 日、1990 年 5 月 31 日~6 月 2 日
調査対象	児童・生徒
依頼数	1850 人 (男子 : 903 人、女子 : 947 人)
診断方法	鼻アレルギーは、医師の診断、鼻アレルギー3 徴 (くしゃみ・鼻汁・鼻閉) のうち 2 つ以上の症状 スクラッチテスト 1 種以上に陽性反応を示す
有症率	鼻アレルギー : 4. 4% (82 人)
男女別有症率	鼻アレルギー : 男子 : 5. 4% (49 人) 、女子 : 3. 5% (33 人)
スクラッチテスト 1 種以上陽性 :	708 人、そのうち鼻アレルギーの症例数は 82 人 (11. 6%)
男女別スクラッチテスト 1 種以上陽性 :	男 : 412 人、そのうち鼻アレルギーの症例数は 49 人 (11. 9%) 女 : 296 人、そのうち鼻アレルギーの症例数は 33 人 (11. 1%)
調査概要	小中学生を対象とした鼻アレルギー有病率の性差についての論文。 鼻粘膜局所における過敏性を表す数値 (有症率 : 鼻アレルギー診断症例数 / スクラッチテスト陽性例数) に性差はみられなかった。